

令和7年度第3回学校運営協議会 議事録

校名	府立阪南高等学校
校長名	稲田 淳子

開催日時	令和8年2月3日(火) 10:30~12:00
開催場所	本校 校長室
出席者(委員)	千葉 一夫 会長、撫 俊男 副会長、 小嶋 憲子委員、田中 秀樹委員、松本 幸治委員、重安 美織委員
出席者(学校)	稲田 淳子校長、伊藤 寿章教頭、 秋 裕基首席、堀 剛首席
傍聴者	なし
協議資料	次第
備考	

議題等(次第順)
<p>協議・報告</p> <p>(1) 令和7年度学校計画及び学校評価(案)</p> <p>(2) 令和8年度学校経営計画</p>
協議内容・承認事項等(意見の概要)
<p>協議</p> <p>(1) 令和7年度のアンケート結果等を用いた評価について協議</p> <p>学校教育自己診断(以下、自己診断とする)の生徒評価「教え方に工夫がありわかりやすい授業が多い」は74.3%で前年度を上回った。一本年度授業見学をする機会があったが、それぞれの授業で工夫がなされていると感じた。授業の中では課題解決能力を導き、定着させるプロセスを見た。日頃、計画的に授業見学、研究協議に取り組んだ結果とみられる。今後も継続して、授業力向上をめざしてもらいたい。</p> <p>自己診断の生徒評価「1人1台端末を活用している」は95.8%と高い数値。</p> <p>一教員間で端末を利用した授業のスキル、意欲に差はあるであろう。その中でここまでの数値をあげるために教員間の個々の努力と合わせてスキルの共有化が図られてきたのなら、さらに継続していただきたい。また、小学校、中学校、高等学校と端末を使った授業の展開はもちろんのことながら、児童・生徒のICTスキルの向上は連携するものであろうから、用いた授業法について研修、研究協議を一緒に継続的な高まりが期待できる。また、そのなかで「C」=コミュニケーション能力向上については、「弱い」と感じており、アイデアを出し合ってほしい。</p> <p>自己診断の生徒評価「国際交流関連」肯定的意見66.4%、一見低い値に見えるが特に注目されるニュージーランド研修実施されない中では数値を維持できている。</p> <p>一国際交流の良さを経験をもとにアピールする機会を増やして、さらに生徒の興味を引き出せるよう工夫、国際社会に;関心を持つ生徒を増やしてほしい。</p> <p>いじめ重大事態、体罰、ハラスメントについては本年度は0であった。</p> <p>一潜在化しているいじめはアンケートではわからなかったり、SNSを通じた犯罪、いじめへの発見は難しいであろうが、児童・生徒の自死の増加傾向を考えると、学校、PTA、家庭などが連携してアンテナを高くして早期対応をとれる体制を常にとる必要がある。</p> <p>自己診断の生徒評価「阪南高校に入学してよかった」89.2%、保護者評価「阪南高校に入学させてよかった」78.8%、前年を若干下回った一学校として最も重視される項目であろう。どのような期待、イメージを持って入学した/させたのかを知る必要がある。そのうえで、分析、対応を考えるとよい。</p> <p>(2) 主に令和7年度からの変更点について協議</p> <p>具体的な取組計画・内容「保護者との連携を密にし、適切な情報共有を通して、相互の信頼関係の構築にあたる」</p> <p>→「学校」、「お仕事をされる保護者」間での連絡情報の迅速な共有はお互いの時間の制約上、難しい一面もある。働き方改革が叫ばれる現在においてはなおさらのことである。「保護者」側からも学校の立場を考えて柔軟に対応する必要性を感じる。また、スマホ、いじめ動画の問題も家庭で形成または放置された環境も一因であることから、学校側から協力を求めるうえでも、情報を流す機会を増やすべきである。</p> <p>令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)・令和8年度学校経営計画(案)ともに承認された。</p>